

教員経験豊富な教員がサポート



■教員採用試験対策講座
チームの力で
教職への夢を全面バックアップ

特任教授 藤原 健剛

現場経験豊かな教職指導員の先生方9名とセンター教員4名の集団指導体制で、採用試験に向けて計画的に講座を開講し、学生をサポートしています。今年度は採用試験の早期化に対応し、2〜3月の春期講座、4月の自治体別エントリーシート作成・面接基礎講座を含めて計26回講座を実施します。採用試験はある種、「団体戦」で、「同じ夢を追いかける仲間づくり」を対策講座を通じて行い、教科を超えて切磋琢磨できるような力を入れています。学生には本人も気づいていない強みもありますから、それを全面に出せるよう支援していきます。



■教職課程カリキュラム編成
文科省方針などに合わせた
カリキュラム変更を円滑に

教授 定金 浩一

文部科学省の施行規則の変更などの施策に沿って教職課程のカリキュラムなどに変更の必要が生じた場合に、事前に正確な情報を入力し、教員の配置や時間割の再編成を支援なく行っています。学生たちの負担を可能な限り減らして、変更後にもトラブルが生じないよう全力で取り組んでいます。最近の例では、電子教科書や電子黒板の導入にあたって、新たなツールを活用した授業が円滑に行えるようカリキュラムを再編成し、人材も再配置しました。これからも学生がストレスフリーな学習ができる環境をめざして努力を重ねていきます。



■教職スタートゼミ
良いスタートダッシュと
意欲と情報の共有を

特任講師 井上 快

本ゼミでは4年次の先輩が2、3年次の参加学生に向けて、教員採用試験に関するさまざまなノウハウを伝授します。また採用試験の模擬試験にも挑み、受験半年前の時点での自分の課題の洗い出しなどを行います。本ゼミは生涯にわたり語り合える仲間をつくることも目的としており、参加学生同士が交流するプログラムも数多くあります。そうして生まれたネットワークは採用試験の情報共有などでも機能します。集い交流することによって新しいアイデアが生まれる、夢に向かってもう一歩前に踏み出せる、そう信じています。



**■学校ボランティア活動・
小学校教諭免許状取得プログラム**
学生の熱い思いに応える
活動制度と専門プログラム

特任教授 八木 眞由美

「学校ボランティア活動」とは2年次の後期から1年間、学校現場にボランティアとして入り、先生方のサポートや児童・生徒の学習支援に従事するものです。教育実習とは違い、授業は一切せずにサポートに徹することで、学校現場の雰囲気を感じ、先生方の仕事を間近で観察できます。「小学校教諭免許状取得プログラム」は、神戸親和大学の通信教育を受講することで、小学校教諭一種免許状が取得できる制度です。本学の教職課程に加えて通信教育課程の履修が必要となるため負担が大きくなりますが、個別指導でしっかりとサポートしていきます。

卒業後も教員ネットワークで支えます

■甲師継星会・卒業生教職員の集い

大学卒業後も教職の現場に立つ者同士が親睦を深め、情報交換を行える場として「甲師継星会」を設けています。会では卒業生教員による講演会や現役の教員である卒業生と教職を志す学生が交流する「卒業生教職員の集い」を開催し、「タテ」、「ヨコ」のつながりを強く「甲南らしい先生」をめざし切磋琢磨しています。



【お願い】

教職教育センターでは左記のような取り組みを活性化するため、卒業生教員の情報を把握し、名簿をリニューアルしたいと考えています。つきましては、本学を卒業し教員になられた方は、右の二次元コードから現在の勤務先等の情報をお知らせください。



問い合わせ

甲南大学 教職教育センター E-mail kyooshoku@adm.konan-u.ac.jp

「先生になる！」

その思い、全力で
サポートしています

【 教職教育センターの活動 】



人間力の高揚は学生と我々の共通の課題

教職教育センター所長
福島 彰利

教員は生きた人間とかかわり、その人を育てるという職業です。教員の教えやアドバイスを生徒の成長に大きく影響することを考えてみれば、非常に重要で崇高な使命をになっている職業と改めて認識できるでしょう。生徒が成長していく過程を共有することで、現場でのさまざまな苦勞が報われる思いがする、という先生が数多くおられます。

本学の教職教育センターでは、教職に必要な各免許の教科に1人ずつ教職指導員を配置する制度を取り入れています。教職指導員は学校現場で長年教育に携わってこられた、経験豊富なベテランの方々です。指導員は毎日1人が常駐しており、学生はいつでも自由に教職に関する相談、質問をすることが出来ます。また、指導員は教員採用試験対策講座も担当していますから、学生は面接や模擬授業の練習をすることも可能です。さらにセンター内には学校の教室を模した「共同研究・実習室（KITEC LABO）」が配備されており、学生は自由に活用できます。

教職をめざす学生は、教職科目とともに自分が属する学部や学科の専

門科目も履修しなくてはならないため、毎日が非常に忙しくなります。ともすれば息切れすることもあるかもしれません。我々教職員は、学生の意欲が低迷しがちなときにもしっかり寄り添い、やる気が高まる方向へ導いていきたいと考えていますので、学生たちには積極的に我々を活用してもらいたいと思います。

教員は過酷な職業だといわれて久しいですが、そんな中でも、教職にやりがいと誇りを感じている学生は、昔と変わらないように思います。

教員をめざす人たちのだれもが「いい先生になりたい」と思うのではないのでしょうか。「いい先生」の定義はむしろ小さいでしょうが、少なくとも生徒からみた「いい先生」とは、魅力的で頼りがいのある先生、すなわち人間力をもち合わせた先生ということになると思います。しかし、この「人間力」を直接教える授業というものは存在しないのです。学生に人間力を身につけてもらうには、とりもなおさず我々教職員自身が人間力を高めるよう意識すること、に尽きるでしょう。そのことを深く心に刻み、日々、学生たちに向き合っていきたいと考えています。

2023年度 DATA

教員免許状取得者数 (大学一括申請分)

2022年度

2023年度

中高一種・専修 (複数免許状取得を含む延べ人数)

145名

178名

教員採用試験合格者数

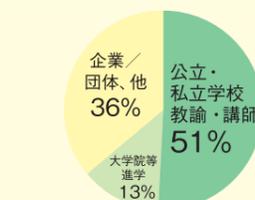
2022年度

2023年度

卒業生・在学生の合格者数 (複数合格者を含む延べ人数)

65名

70名



教員免許状取得者の進路 (2023年度)



文学部 日本語日本文学科
3年次 加古 絵美莉さん



松原市立松原第七中学校 教諭
豊山 明弘さん
法学部法学科 2017年卒業

高校の国語教師になって ことばの力で生徒に寄り添いたい



先輩たちとの交流が高まる「先生になる！」の思い

教師という職業に興味をもったのは高校生のときでした。進路などへの漠然とした不安が多かった時期に、相談に乗ってくださった担任の先生や部活動の顧問の先生のことばで心が軽くなりました。そのことをきっかけに自分のことばで誰かの心を動かす仕事がしたいと思うようになり、高校の国語教師が将来の目標になりました。

教職教育センターによる支援プログラムでは、教職スタートセミナーなどさまざまな講座で同じ道をめざす先輩たちとの交流があり、モチベーションにつながっています。実際に教員採用試験に合格した方々のお話を

子どもたちに寄り添い、心を動かしたり背中をそっと押しつたりができる先生になりたいです。私のことばと国語の授業を通してことばのもつ重みを伝え、ことばを大切にできる生徒を育てたいと考えています。

子どもたちに寄り添い、心を動かしたり背中をそっと押しつたりができる先生になりたいです。私のことばと国語の授業を通してことばのもつ重みを伝え、ことばを大切にできる生徒を育てたいと考えています。

子どもたちにことばの重みや大切さを教える存在に

学校ボランティアでは甲南大学と連携した学校に週1回、1年間通い、時間をかけて子どもたちと関係性を築いています。小学校の特別支援学級で児童のサポートを務めています。一緒に活動していく中で少しずつできることが増えて喜ぶ子どもたちの姿を見て、私も同じようにうれしくなりました。この体験は教育実習にも生かせると思います。

本気80%のつもりで 肩の力を抜き、生徒と向き合う

いまでも覚えている
模擬授業のダメ出し

大学時代は教職教育センターの先生方にお世話になりました。特に社会科学の先生からは、教員採用試験に向けて模擬授業の練習をする私に、「これじゃ絶対落ちるわ」とダメ出しされ、それからたくさんアドバイスをもらい、良くなるまでずっとついでくださいました。絶対に合格させようとする熱意を感じ、励みになったのを覚えています。

教師になって8年目、
生徒の前では「笑顔」と決めて

現在は2年生担任と野球部顧問をしています。教師の仕事は生徒への授業はもちろん、毎回の授業準備、成績管理、そこへ進路相談や部活も加わると、膨大な仕事量です。最初の3年間は生徒とのかわりを大事にしつつ授業準備に追われ、ほとんど休めませんでした。しかし、それを乗り越えれば、一通りのノウハウが蓄積され、少し余裕も出てきます。

生徒たちと日々向き合っていると、悩みごとを抱えていれば顔つきや態度でわかります。そんなときは

声をかけて話を聞き、どうすればよいかを一緒に考えます。大人が思う以上に生徒もそれぞれ悩みがあります。学校ぐらいいは楽しく過ごせるよう、自分がムードメーカーになり、いつも笑っていようと決めました。生徒たちの前で笑顔でいるには、普段の生活からニコニコしていないと続きません。生徒のためにも自分の人格から変えるつもりでがんばっています。

大人が変えてやる、ではなく
変わるのには生徒自身

前の赴任校で、授業中に立ち歩く、勝手に出て行くなど問題行動の多い生徒がいました。あるとき度を過ぎた悪ふざけが頭に来て、注意するも運動場の真ん中で本気のつかみ合いに。かなり手を焼きましたが、その生徒が卒業の日に手紙をくれたんです。見ると、破ったノートの切れ端に汚い字で、「怒ってくれてありがとう」と。当時はしんどい思いをしましたが、伝えるべきことはちゃんと伝わっていたんだなと、心に残っています。

たとえ自分でなく誰とかわっても生徒は成長していきます。変わるのには生徒自身。変えてやるのと力むことなく、本気80%くらいで、これからも向き合っていきます。